

研修報告書 No.34

所 属： 昭和医科大学病院

氏 名： 小島光博

研修先： 田野病院

私は四国一小さな町・高知県田野町にある田野病院で 4 週間の地域医療研修を行いました。お忙しい中、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

田野病院は高知県東部地域(安芸医療圏)の中樞を担う医療機関であり、田野町や隣の奈半利町はもちろんそれより東の室戸市までカバーしています。病床数は急性期の患者さんが主に入院している西病棟と回復期・リハビリ病棟を合わせて約 100 床、夜間救急も受け入れており、外来は病院の常勤の先生プラス様々な科の先生が高知市内や県外から決まった日に月 1～2 回来ていました。患者さんはもちろんのこと医療職(特に医師)の高齢化が進んでいることにとっても驚きました。医師不足というワードはなんとなく受験や学生時代も耳にしていましたが、自分の研修病院は都内の大学病院であり、現実には直面する機会やリアリティが全くありませんでした。高齢者の疾患に対して、外来→入院→退院後の生活までの流れの中でリハビリがいかに患者さんにとって大事な役割を担っているのかということと田野病院のリハビリ施設の充実ぶりがとても印象的でした。しかし、前述の室戸市を中心とした診療所や介護サービスの事業所が相次いで閉業しており、ヘルパーさんの高齢化による老老介護も深刻な社会問題であり、それを肌で実感しました。

他にも感じたことがあります。「十分な医療を行うために必要な人材と資源の確保」です。自分が研修した高知県東部地域では山間部や沿岸部に集落が点在し、高齢化率も全国的にみて 5 番目と高齢化が特に進んでいます。そのため、慢性疾患を複数抱える高齢の患者さんが多く、単一疾患の患者さんは少なく複数分野の医療知識が求められることが多いと感じました。救急搬送においても、都市部のように各科の専門医がほとんど揃っているような環境ではなく、限られた医師数の中で総合的に判断し、必要に応じて高次医療機関へ搬送する体制が整えられていると感じ、都市部の医師とはまた違う能力が要求されるなど感じました。医療へのアクセスという観点では決して恵まれているとは言えない状況にも関わらず、都市部にはない、自分がとても良いなと思った点もあります。「医療者と地域住民との距離が近く、顔の見える関係性の中で医療が実践されている点」であり生活の中で声をかけられることもしばしばありました。家族とはまた違う繋がりでお互い支え合っているなどという印象がありました。

研修内容については、外来診療、病棟管理、救急対応、在宅医療への同行、カンファレンス参加など、多岐にわたる経験を積むことができました。特に外来では、生活背景や家族構成まで踏み込んだ診療が求められ、単なる疾患治療ではなく「家での生活を支える医療」の

重要性を実感しました。救急では、軽症から中等症までを自ら初期評価し、限られた検査環境の中で臨床力が鍛えられました。足りない部分も痛感し、モチベーションも上がりました。一方で、都市部病院と比較すると専門的検査や治療選択肢が限られる場面もありました。

今回の地域医療研修で得られたものは大きく3つあります。第一に、総合診療能力の向上です。主訴から鑑別を広く挙げ、重症度を即座に判断する力は、今後救急領域に進むうえで大きな財産となりました。第二に、患者さん中心の医療観です。疾患だけでなく、その人の人生や価値観を踏まえた意思決定支援の重要性を学びました。第三に、地域医療を支える責任感です。医師一人ひとりの判断が地域全体に与える影響の大きさを実感し、日々コツコツ勉強していかなくてはならないなと感じました。

今回の地域医療研修に関して、お忙しい中、田野病院関係者の皆様には心より感謝を申し上げます。お世話になりました。ありがとうございました。